



五ノ為ニ答ニ答  
有ク有ク

井上

右 渡山ノ為

佐野

右 燈明ノ為

小野

右 詔書ノ為

石川

右 詔書別兩調任ノ為

中ノ為

山内

右 詔書別兩任ノ為

中ノ為

石川

右 詔書ノ為

未ク至原前

福谷

右 詔書ノ為

右 詔書ノ為



未夕至原前

福谷

石傳信傳為勢

石く外方用仁

二名

石正キスキニ千コクモ勢  
ま名曰マ子じヤモ勢  
ま名但マ子じヤと上野  
と流く可也乎

ま名

石要地則是モ勢  
洋人ま名は鹿入乎成年  
生徒教名は傳て流  
ま名はうれ乎こし  
明虎らるの英ゆ身  
ま名仁ブウヒト石  
利く南時ハ歌ハ成  
仁ま名年移ハ誠  
ま名河平上系馬  
神奈川志ハ剛  
可也

石伝信

正キスキ

千コクモ勢

和久く南河内郡にありて  
仁志を以て年終に試み  
世河平と云ふ事あり  
神奈川志に則て之を  
可也

石鏡石と云ふ事  
千二少少勢方と云ふ事  
近二一月中名鏡石  
石と云ふ事  
石と云ふ事  
石と云ふ事  
石と云ふ事  
石と云ふ事

十八日

大坂家傳傳山屋書